

# イカリ消毒株式会社

## (その1)イカリライブラリー・セミナールーム

訪問者

(公社)東京都ペストコントロール協会理事 広報委員長 葛西 晋平

平成29年4月27日(木)、協会の緒方理事とご一緒に、イカリ消毒株式会社(以下、イカリ消毒)の新しい研究施設を見学させていただく機会を得た。今号の機関誌編集会議に於いて、緒方理事より発案されたこの企画、是非この取材レポートを協会員の皆さんにお読みいただければと思っている。



LC環境検査センター建物

今回の訪問はイカリ消毒株式会社の一部で、千葉県習志野市茜浜に所在する“Life Creation Square”と呼ばれる、研究施設を含む5棟からなる施設群。もともとは自社の習志野薬品工場だった跡地に作られており、千葉県を含む各地に散らばっていた研究所や、検査分析施設、開発部門など技術系の部署をまとめたと言うのが概要である。今回はイカリ消毒株式会社、取締役技術統括部部長である田近五郎氏(以下、田近)と本協会の理事でもあり、イカリ消毒株式会社技術研究所所長である谷川力氏(以下、谷川)にお話を伺いながら「イカリライブラリー・セミナールーム」と「技術研究所」

をご案内頂いた。

今号では、葛西が「イカリライブラリー・セミナールーム」について報告し、次号では緒方が主として「技術研究所」について。報告することにした。



ライブラリー・セミナールーム外観

(葛西) まず“Life Creation Square”とはどんな施設か、という事について説明していただけますか？

(田近) この施設は平成29年2月22日に落成式をすませ、同3月4日より稼働しております。ご覧になって頂き解るように5棟の建物からなっており、それぞれが「LC (Life Creation) 環境検査センター」「技

術研究所」「商品開発部・購買物流部」「イカリライブラリー・セミナールーム」「BMSA・環境文化創造研究所」となっております。

各地に点在していた微生物の検査部署や理化学研究の部署、捕獲した昆虫の同定や測定を行う部署、それと谷川が所長を務めるネズミ昆虫の飼育・実験・研究などを行う技術研究所などをこの1ヶ所にまとめたのが“Life Creation Square”という事です。それぞれの部署が点在していたのは意図的なものではない訳で、必要な設備や地理的なもの、金銭的なものも含め総合的な判断で各地に造られた。しかしそれらを1ヶ所にまとめることで、よりスピーディーに、より確実にその研究の実証や研究・実験結果を受けての商品開発、開発した商品のテスト、コストの削減、現場での使用感など常にリンクした状態で情報を共有できるのです。



創業初期の写真

たとえば技術研究所は千葉市内の千葉寺にありましたが、検査センターはこの茜浜の別の番地にありました。車で行けば片道一時間で行けますが、たかが往復2時間でもされど2時間でもあ

るんですね。1日2時間、10日で20時間です。このタイムロスが無くなったのが大きいです。

(葛西) なるほど、よくわかりました。

先程初めてここを見た時、大きな施設だなと感じました。働いていらっしゃるのは何人くらいですか？

(田近) およそ150名の人員で施設を動かしています。

ざっくりした内訳だと、検査センターで100人、技術研究所(技術開発含む)で10名、商品開発・購買物流で20名、殺菌とライブラリーの棟で10名、後は事務職員ですね。

かなりの大所帯でやってます。ちょっと多すぎたかなと(笑)。

(葛西) 私自身、お恥ずかしながら研究所と言う場所の見学すら経験が無いのですが、今回緒方先生のお誘いがあったおかげで、このような素晴らしい施設を見学することが出来ました。しかしながら非常に理想的だとは思いますが、実際このような施設を保有している企業さんは無いと思います。なぜこの施設が作られることになったのでしょうか？



ネズミの抵抗性について書かれた記事

# イカリ消毒株式会社

(田近) 検査部門は検査の依頼を受ければお金が頂けます。商品の開発も売ればお金が入ります。ただ基礎研究はそうもいきません。役に立つのか立たないのかは続けてみなければわからない。もちろん“こんな結果ができればこれに役に立つのでは”的な発想で研究テーマを考えますが、全てが良い結果になる訳じゃない。どちらかと言えば、逆の方が多いと思います。

谷川などの研究者にしてみれば、そこら辺がジレンマになっていると思います。しかし、このイカリと言う会社には、それらに対する理解が非常にありました。技術研究所は昭和38年に初めて作られており、谷川で5代目の所長です。イカリの創業とそう変わりません。いつお金になるか解らない研究に、経営者の理解が無ければこんなに資金をつぎ込むことは不可能だと思います。もちろん基礎研究が無ければ薬剤の開発(前出、LCSの所在地は元自社薬品工場跡地)や、トラップ等の開発も自前ではできませんが。

(葛西) なるほど、色々教えて頂きありがとうございました。

では、具体的に施設についてお聞きします。お話を伺わせていただいたこの建物「イカリライブラリー・セミナールーム」について、どの様な施設であるか教えてください。

(田近) はい、こちらはイカリの歴史的資料を展示しております。会社の変遷を綴った年表や、各年代の写真など。また、自社開発した商品などを展示しています。

こうして見て頂くと、80年代は主に機械系の物、ライトトラップやシートシャッター等が目立ち始めますし、90年代ですと総合衛生管理と言う概念から、食品を扱う現場での衛生管理を徹底するために必要なものが色々開発されています。



ライトトラップやシートシャッター



様々な歴史的商品が並ぶ

2000年代に入りますと総合衛生管理のクォリティーを高い次元で維持していくために、グローバルスタンダードのマネジメントシステムを導入しました。ISOやHACCPなどですね。個人によって管理するレベルがバラバラでは、組織として高いクォリティーを維持できませんし、様々な問題も発生していきます。2010年になりますと、オンライン系の管理機器の開発を進めまして、

ネズミをセンサーが感知するとカウントしオンラインでデータを蓄積するとか、捕虫器も同様に捕まった個体数をカウントするなど、そういった事に力を入れてました。



オンライン管理用の機器類

その他としましては、昭和41年に当社が出しました電車の中吊り広告だとか、過去のネズミに関する新聞記事、ネズミと人間の関係などを時系列で並べた年表的なものも展示してあります。

(葛西) まさしく、イカリ消毒の集大成と言うべき施設ですね。

(田近) その他、ある程度の規模で会議やセミナーを行えるスペースなどもあり、社内・社外に対し様々な勉強会やイベントが行えるようになっています。

(葛西) いろいろ説明していただきありがとうございました。



展示品の数々



現場で使用される道具類



技術研究所外観

☆約1時間をかけて、田近さんよりライブラリーの説明や、貴重な映像や資料などを拝見し非常に勉強になった取材でした。

この後、技術研究所に場所を移動し、谷川さんから研究に対する情熱や成果、ジレンマなどをお話ししていただきました。こちらは次号にて緒方先生より報告を頂きたいと思います。